

残そう、自然の宝石箱・のりくら

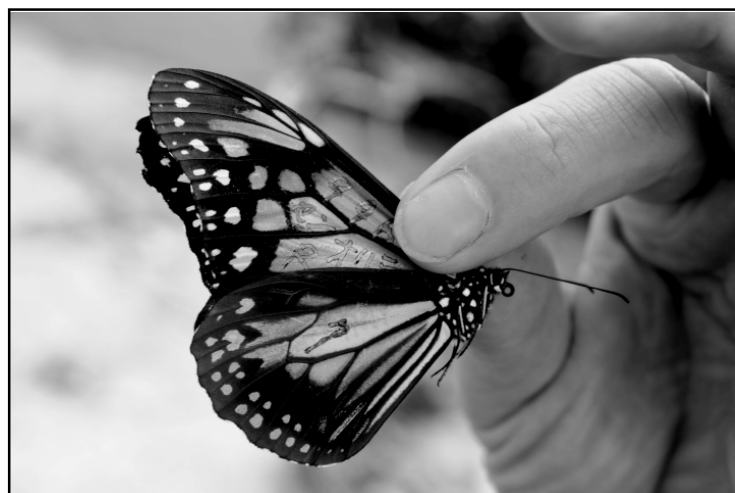
くらがね通信

No.38 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 21年 11月 1日発行

アサギマダラ、今年も再捕獲される



《996 センRオハラ 7》

今年で3回目となる『アサギマダラマーキング会』を9月6日に開催しました。今年は昨年を上回る147頭にマークをして放蝶したところ、10月9日に兵庫県宝塚市で再捕獲されました。

再捕獲されたアサギマダラは、小学4年生の小原龍神君がマークした個体です。渡辺康之さんから送られてきた写真(上記写真)を見ると書いたマークは少し薄くなってはいますが「996 セン Rオハラ 7」と読めます。移動日数33日、移動距離約230kmとなります。

環境講演会 『山と川と自然』

山間部における溪流に棲む生物(魚類を中心に)はどんな生活をしているのだろう

講師：田中 晋(たなかすすむ) 富山大学名誉教授

講師略歴：1940年 東京で生まれ。1967年より富山大学に在職。2005年名誉教授となる。

- ・富山大学在職中は主として淡水魚の生態、ミジンコ類の分類と生態に関して研究。
- ・現在、富山県動物生態研究会(会長)、NP0法人山の自然と文化研究センター会員
環境省希少野生動植物種保存推進員、富山県環境審議会委員など多数の委員を歴任

日時:11月13日(金) 午後7時より 場所:高山市民文化会館

アサギマダラマーキング会

マーキング会間際のアサギマダラのネット情報では、今年は長雨・長梅雨の影響かアサギマダラの発生数が少ないようだとのことで心配になり、会が開かれる前に数回現地の下見に行ってみる。いくつかは飛んでいるが昨年のような群れは全然見られない。そのうち、少し回復の兆しがありとの情報も入る。

そんな中迎えたマーキング会。当日は天候も良く多くの参加者で楽しめそうだ。現地に到着してすぐアサギマダラを見つけ捕獲。鈴木さんに捕獲・マークの仕方を教えていただき林道を歩く。ところが歩けども歩けども全然いない。それもそのはず、アサギマダラが蜜を吸うヨツバヒヨドリの花がほとんど終わっている。そんな中、たまたま飛んできたのを直井一希君が捕獲した個体には既にマークがしてあった。「UTU 8・28 TMS 1299」後日調べてみると8月28日に長野県松本市の美ヶ原でマークした個体と判明。マークした人に連絡した。

柳蘭峠に場所を移すとヨツバヒヨドリがまだ花が咲いており、アサギマダラが次から次と飛んできて、捕獲しマークすることが出来た。全員がマークしたところで、チャオスキー場の前での楽しいランチタイムとなった。昼食後は昨年と同じ県道沿いに移り再び捕獲。昨年より少ない感じではあったが、それなりに捕獲する。鈴木さんが事前に捕獲していたのも含めると、昨年より多い147頭にマークをして放蝶することが出来た。



(写・小野木三郎)

途中、県道拡幅工事現場に積んであった伐採木の辺りで、オコジョを見る。何時もは工事機械の音でやかましいのだが、今日は人の声で騒がしかったのか「今日は何かおかしいな？なんだろう？」という感じでキョロキョロあたりを見渡ししながら材木の間から出たり入ったりを繰り返していたが、人が増えてきたせいか姿を見せなくなった。山へ帰って行ったのだろうか？このように楽しい一時を過ごし3時を過ぎた頃に現地を後にする。

後日、再び現地を訪れたが既に花は終わっており、飛んできてアサギマダラは花には止まらず高く低くフワフワと通り過ぎていくばかりだった。その中のいくつかはマークして再捕獲を願って放蝶した。10月9日、ネットで再捕獲の情報を確認していたところ、参加者の放った一頭が再捕獲されていた。「996 セン Rオハラ 7」**龍神君、再捕獲おめでとう**。今年最初の再捕獲だ。当会のマーキング会で放した蝶が2年連続で再捕獲され、これで4例目だ。予想以上の好成績をあげている。毎年マークしていても一度も再捕獲されていない人もあるというのに、当会の参加者は日頃の行いが良い人ばかりなのかな？



当日の記録と移動情報はアサギマダラの渡りを調査している方に報告した。今秋の渡りはまだ続いており新たな再捕獲が入ったら皆さんに報告させていただきます。

アサギマダラのマーキングをする人が年々増えている。渡りは秋だけではなく、春は南から北へ渡って行く。皆さんもマーキングをして自然の不思議を体験してみよう！

なお、龍神君のお姉さんも昨年再捕獲の記録があり、小原家では2年続けての快挙です。重ねておめでとうございます。

参加者：鈴木俊文、長澤和子、桂川由紀、高嶋恵子
小原靖子・みなみ・龍神、中谷千穂・公介、泉原孝子、
住幸之義・文乃、尾崎裕子・さくら、小野木三郎、
直井清正・一希、清水幸平、斉藤義幸、佐藤八重子、
宝田延彦



(絵・松崎まみ)

御嶽山展望スポット

その3. 小坂町御嶽パノラマライン



下呂市小坂町から濁河温泉へと向かう県道 441 号線、通称“御嶽パノラマライン”で濁河温泉へ向かう途中、目の前がパアッと広がり正面に御岳の全容が展望できる。そこが大平台展望台だ。渓谷と雄大な御岳を堪能してください。道は尾根近くを通るが、谷底まで 300m もある崖になってもある。曲がりくねったうえに狭い場所もあり、車のすれ違いに注意して慎重な運転を心がけて通行してください。

ここでは 9 月中旬頃から南へ渡っていくサシバ、ハチクマなどのタカが群れで尾根を越えてくるのが観察される。

乗鞍岳をめぐる出来事（報道から）

今年も乗鞍岳関連の報道が多く流れていたが、中でもクマの“襲撃事故”では9名もの重軽傷者が出て多くのテレビや新聞で報道された。けがをされた方には一日も早く回復されます事をお祈りしております。

【熊による事故】

午後2時30分頃、魔王岳登山道に現れたツキノワグマにより登山客、山小屋関係者、パトロール員などが噛みついたり引っ掻くなどされて9名の重軽傷者を出した。バスターミナル売店内に閉じ込められたクマはその後射殺された。

※ この事故は多くのテレビ、新聞などのマスコミで報道されているが、事故以前の熊の目撃に関して取材元により違いが見られるが、スカイライン開通以後沿線での目撃例も時々報道されていた。この事故を検証するため、24日 NPO 法人日本ツキノワグマ研究所が現地を視察、聞き取りなどの調査をし、その検証報告をホームページにまとめている。理事長の米田一彦氏は2005年に当会主催の講演会で「生かして防ぐ熊の害」と題して講演していただいている。

※ 早い段階に「射殺は止めて」との要望が日本熊森協会や高山署に入っていた。また当会副会長の小野木も高山市民時報社に「豊平の熊襲撃事件に思うこと」と題して寄稿(9/23掲載)し、熊を一方的に悪者扱いせず、事故の過程を精査することを望んだ。

【ヘリにより救助、搬送】

9月21日に鶴ヶ池付近、10月12日に魔王岳で登山客が転倒し動けなくなり県警ヘリが出動した。

※文面だけからはけがの程度、状況が分からないので軽々しいことは述べられないが、2件とも足場の悪い場所での転倒で、病院まで遠い場所なので県警ヘリが出動したようだ。乗鞍岳とは県内有数の観光地で大型の観光バスも通り、多くの観光客、登山客が散策しているが、場所が場所だけでもしもの場合、簡単に救急車とはいかない。体調管理、服装、慎重な行動が求められる。

【マイカー規制】

丸山肇議員の環境負荷の少ない自動車の象徴的な受け入れの企画など限定的に乗り入れられないかとの質問に関して、高山市は「乗鞍自動車利用適正化協議会の適正化方針に『環境への負荷が少ない車両の乗り入れについては今後の研究課題とする』と決めているので環境省の『燃料電池自動車啓発推進事業』を活用し電気自動車を借り受けて体験走行を実施し、環境に配慮した観光地をPRする事業などを協議会の新興部会に提案していきたい。低公害車や無公害車については今後の普及状況を見ながらの研究課題としたい。」と答弁した。

■ 会 員 状 況： 平成 21 年 9 月末会員数 個人・家族 1 1 3 ・ 団体 3

くらがね通信 第 38 号（秋号） 平成 21 年 11 月 1 日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋
TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：宝田 延彦 E-mail: nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者：住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供：小池 潜

印刷：アドプリンター
